

第三セクター等経営健全化方針（第2期間）

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和6年4月1日
作成担当部署 棚倉町産業振興課

2 第三セクター等の概要

法人名 株式会社 ルネサンス棚倉
代表者名 代表取締役 湯座 一平
所在地 福島県東白川郡棚倉町大字関口字一本松 43-1
設立年月日 昭和61年12月24日
資本金 50,000千円
【当該地方公共団体の出資額（出資割合）30,000千円（60%）】
業務内容 棚倉町リゾートスポーツプラザ「ルネサンス棚倉」の運営管理

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、及びそれに伴う原発事故により、東北地方の観光業は大きな影響を受け、ルネサンス棚倉においても、震災以降、団体客、個人客などの宿泊者数は大幅に減少し経営にも大きな影響を受けました。このような状況下において、町では令和元年度に「第三セクター等経営健全化方針」を策定し、令和5年度には経常黒字を目標として、DX化の取組みや全従業員が機動的に運営できる体制を整えるなど、経費を削減しながら経営改善への取組みをしてまいりました。令和2年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全国的に観光消費及び地域経済が低迷し、別表のとおり令和2年度宿泊人数は7,316人（令和元年度比29.8%）、令和3年度宿泊人数は8,765人（令和元年度比35.7%）と利用客の減少により収益が大きく減少しましたが、令和元年度に公益財団法人日本ソフトテニス連盟との強化等拠点整備に係る基本協定を締結し、連盟が整備した「テニスパーク棚倉」において、令和3年度から日本代表選考会や全日本選手権大会、合宿等が開催されたことや、令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に移行されたこと、SNSを活用した営業を積極的に行うことで利用者や宿泊者が増加してきているところです。しかし、近年の物価高、燃料費や電気料等の高騰による施設の運営経費の増大等も要因となり、令和5年度決算では、目標とした経常黒字には至りませんでした。

これまで町は、指定管理料の支払いや経営安定化資金の貸し付けを行い、経営体質の強化を図れるよう支援してきました。また、連絡調整会議を定期的に行い、現状と課題の分析や各年度の決算後に経営状況を確認しながら助言等を行ってきたところです。

(別表 1)

宿泊者数・売上額比較表

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
宿泊者数(人)	24,555	7,316	8,765	17,151	17,825
売上額(千円)	281,190	94,994	124,436	187,287	183,074

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

ルネサンス棚倉は、平成2年4月の営業開始以来、町活性化の起爆剤として町民にスポーツ及び健全な保健休養の場を提供するとともに、県内外からの誘客の促進を図り、交流人口の増加による町の活性化に寄与してきました。

今後も引き続き第三セクターで事業を展開するとともに、地域振興・活性化を図る必要不可欠な拠点施設であるため、現状と課題の分析を行い経営改善に努めていきます。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

ルネサンス棚倉は本町の観光・交流拠点及び地域活性化の中心施設として位置づけられておりますので、令和5年度に策定しました経営改善化計画に基づき、各部門のあり方等を抜本的に見直し、町づくりの拠点施設として、町内はもとより、県内外から多くの誘客に取り組み、交流人口の増加、売上額の増収増益を目指します。

売上高確保だけを目的とした実施ではなく、経営状況に対して、引き続き全従業員の危機意識や経営の参画意識を高めるとともに、DX化を進めて経費削減に取り組みます。

町は、当分の間、指定管理料を支払い、早期に経営体質の強化を図れるよう支援します。財政リスクを抑えるため、定期的に点検・評価を行い、決算後には経営状況の確認や実施事業を改めて評価をし、助言・指導を随時行うこととします。経営改善の見通しが立たない場合には、総務省の「地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業」を活用した外部アドバイザーの導入を検討し、令和6年度以降、安定的な経常黒字を目標といたします。

6 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額(千円)				
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	資産総額	83,475	178,979	233,195	194,210	167,084
	(うち現預金)	31,136	125,581	184,208	131,730	120,723
	(うち売掛金)	3,710	4,695	3,412	15,665	4,651
	(うち棚卸資産)	3,204	2,042	2,262	3,031	2,676
	負債総額	219,446	387,204	495,723	473,035	450,892
	(うち当該地方公共団体からの借入金)	80,000	120,000	140,000	136,000	128,000
	純資産額	△135,970	△208,225	△262,528	△278,825	△283,807

損益計算書から	項目	金額（千円）				
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	売上総利益	240,148	82,023	111,148	163,312	159,200
	販売費及び一般管理費	326,912	246,720	242,987	242,434	221,990
	経常損益	35,788	△70,759	△54,110	△16,113	△4,797
	当期純損益	35,603	△72,255	△54,303	△16,298	△4,982

7 第2期間目標

第2期間目標	項目	金額（千円）				
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
	売上総利益	252,000	277,200	277,200	277,200	277,200
	販売費及び一般管理費	296,400	307,200	307,200	307,200	307,200
	経常利益	11,000	26,000	26,000	26,000	26,000
	当期純利益	10,815	25,815	25,815	25,815	25,815